

## 2.2 SSH国語（国語分野）

### (1) 研究開発の課題（概要）

昨年度に既に1年生普通科全員を対象に、論理的文章を読解し、要約する方法、論文の書き方について理解させるためのカリキュラムを作り上げている。今年度は、昨年度実施したSSH国語のカリキュラムを踏襲しつつ、更に成果の上がるような授業展開を工夫した。ねらいのところで挙げた相互評価を、できるだけ立場の違う人を探して相互評価を行わせたことなどがその一例である。

### (2) 仮説（ねらい）

- ・科学的な内容を中心とした論理的文章を読解し、要約する力を養成する。
- ・論文の書き方についての知識を習得し、自分の意見を論文にまとめる力を養成する。
- ・他者の書いた作品を読み、相互評価することで視野を広げる。

### (3) 研究内容・方法

ア 対象生徒 1年普通科全員 320名（男子196名、女子124名）

イ 日程・内容

学期	時間	内 容
一 学 期	1	1 作文と論文の違い 2 原稿用紙の使い方 3 文章を修正する その① 新聞記事の原稿をより正確な記事に仕上げる
	2	4 文章を修正する その② 投稿欄の記事を正確な内容、理解しやすい書き方に改める
	3	5 テーマ型小論文を書く 「私の東西論～山崎正和『水の東西』をモデルとして東洋と西洋の間で文化的な差異が感じられる例を一つあげ800字以内で書きなさい。」
	4	
	5	相互評価・自己評価
二 学 期	6	6 要約と文章構成の把握 その① — 『天声人語』より（200字・100字・50字・25字）
	7	7 問題解決型小論文を書く 「現代の日本人の食生活についてあなたが考えることを、問題を解決していく形式で800字以内で書きなさい。」
	8	
	9	相互評価・自己評価
三 学 期	10	8 要約と文章構成の把握 その②
	11	9 「原子力発電の是非について」 資料を参考にしてあなたの意見を800字以内で述べなさい。
	12	
	13	相互評価・自己評価

ウ 実施場所 各教室

### (4) 検証（結果と反省）

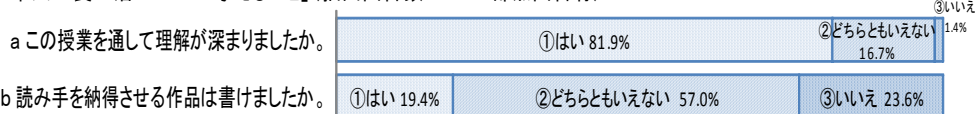
#### ア 事後アンケートの結果から

論文を書き、相互評価・自己評価をした時に実施したアンケート結果

(7)「私の東西論」（抽出回答数80 一部無回答有）



(1)「現代の日本人の食生活について考えること」（抽出回答数80 一部無回答有）



\* 「原子力発電の是非について」の相互評価、自己評価アンケートは3月に実施予定。

## イ 生徒の感想から

論文を書き、相互評価・自己評価をした時に書いた感想

### (7) 「私の東西論」

- ・様々な発見があって有意義な1時間であった。
- ・人に読んでもらって評価され、どこがよいのか、悪いのか、わかってよかった。
- ・書いているうちに考えが深まったような気がする。
- ・はじめて小論文を書いたので内容がうまくまとまらなくてもどかしかった。
- ・考えたことを言葉で表現することは本当に難しい。
- ・簡潔でわかりやすい文章を書くのは大変難しいと思った。
- ・相手に自分の意見を正確に伝えるのはとても難しいと思った。これから、そういう能力を養っていきたい。
- ・例を挙げてまとめることは全然やったことがなかったので苦戦した。
- ・論文を書くうちに1つの物事に対して様々な視点から見ることの大切さが分かった。

### (4) 「現代の日本人の食生活について考えること」

- ・人を説得するための工夫をもっとしたほうがよかったのかもしれない。
- ・第3者からの意見には自分が気がつかない点が多く、有意義であった。
- ・みんな色々な視点から書いていて読むのも楽しかった。
- ・日本の「食」に関することがとても身近に感じられた。
- ・今回日本人の食生活を見直してみると、とてもたくさん抱えていることが分かった。もっと自分たちの生活を見直して暮らしていきたいと思った。
- ・日常の関連したニュース等にもっと目をつけていくべきだと強く感じた。
- ・まだ書き慣れていないのでまとめるのがたいへんだった。しかし、書くたびに記述力がつくと思うので、次もがんばりたい。
- ・相手に自分の意見を正確に伝えるのはとても難しいと思った。これから、そういう能力を養っていきたい。
- ・相手を納得させるにはどうすればよいか考えることができた。
- ・自分の意見に説得力を持たせるには適切でわかりやすい例が必要だと思った。

## ウ 今後の実施に向けて

- ・昨年と同様に、論文の1回目（「私の東西論」）ではまだまだ文章の構成などに不備が多く説得力のある文章ではなかったが、2回目（「食生活について……」）になるとグンと説得力が増してきた。初期のうちは回数とともに大きく文章力が伸びていくので現代文の授業と連動させて回数を増やす試みをしてほしいのではないかとと思われる。
- ・今年度も、下書きに入る前の段階で、近くの席の人どうしで討議する時間を取って見たが、文章に深みを与える効果があったと評価できる。
- ・昨年同様、相互評価の形式が視野を広げる上で役に立つものだと結論を得ることができた。できるだけ考え方の立場が違う人を探して相互評価をするように指示したことも有効であった。
- ・優秀な作品を1、2作品取り上げて、クラス全体で評価するという機会を設けてみるのも一つの手だと思われる。そうすることによって、生徒どうしの評価で終わらず、教員の指導、助言が入れられやすい。
- ・科学的な内容の論文を書くためには、理数系の先生方の協力が不可欠である。国語科の枠を越えて、教科間の連携を図らなければならない。